

中西 進特別委員（高志の国文学館館長）からのご意見

平成 28 年 4 月 11 日

- 私がお伝えしたい点はこれまでと同様、「人間づくり」。藩校の伝統を受け継いで、現代版の「広徳塾」を創設すること。
  
- 富山県が、最高の日本人づくりをする「場」であってほしい。富山県は、子どもたちの学力が高く、歴史、文化、地勢的からみても、『「理想」を実現することが易しい県』であると考えている。是非、検討してもらいたい。
  
- ビジョンを先鋭化するためには、扇状にプランニングすることが大事。例えば、「とやまバリュー」という言葉は良いと思う。が、「とやまバリュー」とは何かを展開すべきではないか。
  
- 「高度専門人材を育成」という手段も否定しないが、これまでも外国語を修得して海外へ立つ若者はいるが、日本の歴史・文化を語るができないことに問題がある。
  
- 「2045」という切り口は良い。少ない人口で年代をバランスさせることが望ましい。元来日本は国土が限られていることから、「大国」ではなく「小さな国」であるべき。富山県は山に囲まれ、濃密な自立性が育まれた「独立王国」。富山県は日本のリーダーとなる要素を持っている。